

一般質問発言通告書

発言順位 5番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和4年11月22日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 10番 河野 月江

質問事項1	三島駅南口東街区再開発事業における導入医療機能と権利変換計画同意について
具体的内容	三島駅南口東街区A地区市街地再開発組合は今年度中の権利変換計画(以下「計画」という)認可を目指す、そのためには都市再開発法上、「各地権者からの計画への同意書集め」「計画の決議総会の開催」を経て、計画の縦覧(2週間)開始に12月末までにこぎつける必要がある。まさに今の時期が、組合によって、三島市を含む地権者からの同意書集めが行われている最中である。その最中の先月4日『静岡新聞』が、広域健康医療拠点への順天堂大進出の意向とともに、医師会から地域医療への影響などへの不安や懸念の声が上がっていることを報じた。広域健康医療拠点整備と医療機能導入については、これまで自身も含め、多くの議員が再三にわたり市の基本姿勢を質し、「医師会との相談で詳細を定めていく」旨の言質を得てきた。それにもかかわらずこうした事態を招いていることは、医師会はもとより議会の軽視と言わざるをえない。権利変換計画に三島市が同意をするにあたっては、計画の詳細を十分市民に説明した上で市民の同意を得てからとすること、医療機能の導入にあたっては今からでも医師会の要望をふまえて丁寧な協議をおこない実施設計に反映させることを求め、以下について伺う。
	1 広域健康医療拠点の導入機能について
	2 実施設計の進捗状況について
	3 権利変換計画を決議する組合総会の日程について
	4 市有地の権利変換と同意について
	5 県知事から要請を受けている「5分野16項目の検証」への対応について
質問事項2	市内小学校における通学用カバンについて
具体的内容	自分の身体に合わない重さや大きさのランドセルを背負ったまま長時間通学することによる心と身体の不調、いわゆる「ランドセル症候群」が注目されつつある。具体的には、小さな体で3kg以上の重さがある通学カバンを背負いながら通学することによる、筋肉痛や肩こり、腰痛などの身体異常や、通学自体が憂鬱に感じるなど気持ちの面にまで影響を及ぼす状態を表す。15年間で教科書が2倍もの重さとなったことに加え、タブレット導入によってますます子どもたちのランドセルの中身が重くなっていくのを前に、文科省は平成30年9月、事務連絡「児童生徒の携行品に係る配慮について」を発出した。当市においても、家庭学習に必要な教科書・教材を学校に置いておくいわゆる「置き勉」を可とする配慮など、対応がなされているところである。一方、これを機に、ランドセルと比べ、より軽量で安価な通学カバンへの注目も集まっており、新入学の児童に無償で提供する自治体も生まれている。今後、子どもとその保護者が、希望と条件に合った通学用カバンをより選択しやすくしていくための条件づくりを求め、以下について伺う。
	1 iPad機能を利用した教科書・教材の持ち帰りの到達点と課題について
	2 小学校における通学用カバンの案内の現状について
	3 軽量で安価なカバンを児童・保護者が選びやすくするための方策について